

<全体分析>

試験時間 60 分

|  |
|--|
| <p><b>解答形式</b><br/>記述, 計算, 論述, 選択</p> <p><b>分量・難易 (前年比較)</b><br/>分量 (減少・<b>やや減少</b>・変化なし・やや増加・増加)<br/>難易 (易化・<b>やや易化</b>・変化なし・やや難化・難化)</p> <p><b>出題の特徴や昨年との変更点</b><br/>頻出の宇宙分野からの出題がなかった。</p> <p><b>その他トピックス</b><br/>空欄補充の形式での出題が大幅に増加した。<br/>字数制限がある論述問題が出題された。</p> |
|--|

<大問分析>

| 番号  | 出題形式                 | 出題分野・テーマ       | 範囲 | コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)  | 難易度 |
|-----|----------------------|----------------|----|---|-----|
| I   | 記述<br>計算<br>論述       | 地震             | 地学 | 難易のバランスが良くとれた出題といえる。問 2 の(2)は、初動の揺れについて簡単な断面図を描くと、解答を見つけやすい。問 3 は、津波の伝播速度、波高、伝播方向の全てに言及して解答を組み立てたい。   | 標準  |
| II  | 記述<br>選択<br>論述       | 岩石<br>鉱物<br>地質 | 地学 | 問 1 の <b>オ</b> ~ <b>キ</b> は、細かな知識が問われており、教科書の熟読が必要であろう。問 2 は白丸が陽イオンであることに注意が必要である。問 3 と問 6 は、字数制限があるので戸惑ったかもしれないが、どちらも頻出の内容である。                 | やや易 |
| III | 記述<br>論述<br>選択<br>計算 | 大気             | 地学 | 知識と考察の問題のバランスが良い出題といえる。問 2 は、「高温」および「多湿」と「乾燥」に触れていれば良いだろう。問 3 は、制限の文字数が多いが、70 字程度を越えれば解答の分量としては、十分であろう。問 5 の(2)は、問題文の快晴、曇りといった情報を読み取らないと解答できない。 | 標準  |

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

|  |
|--|
| <p>神戸大学の地学の特徴は、論述問題の比率の高さにある。論述問題の対策は必須である。また、計算問題については、教科書に載っている公式が出題された場合に備え、計算練習を繰り返して正確性を高めるようにしましょう。また、途中式が何を示しているかを言葉で説明することにも心がけてほしい。</p> <p>もちろん空欄補充などの記述形式の問題も大事である。記述形式の問題は、全問正解して得点の取りこぼしが発生しないよう心がけてほしい。教科書などにしっかりと目を通しておこう。</p> <p>何よりも、論述問題こそが得点差がつく問題である。素早く文章化ができることを目指そう。</p> |
|--|